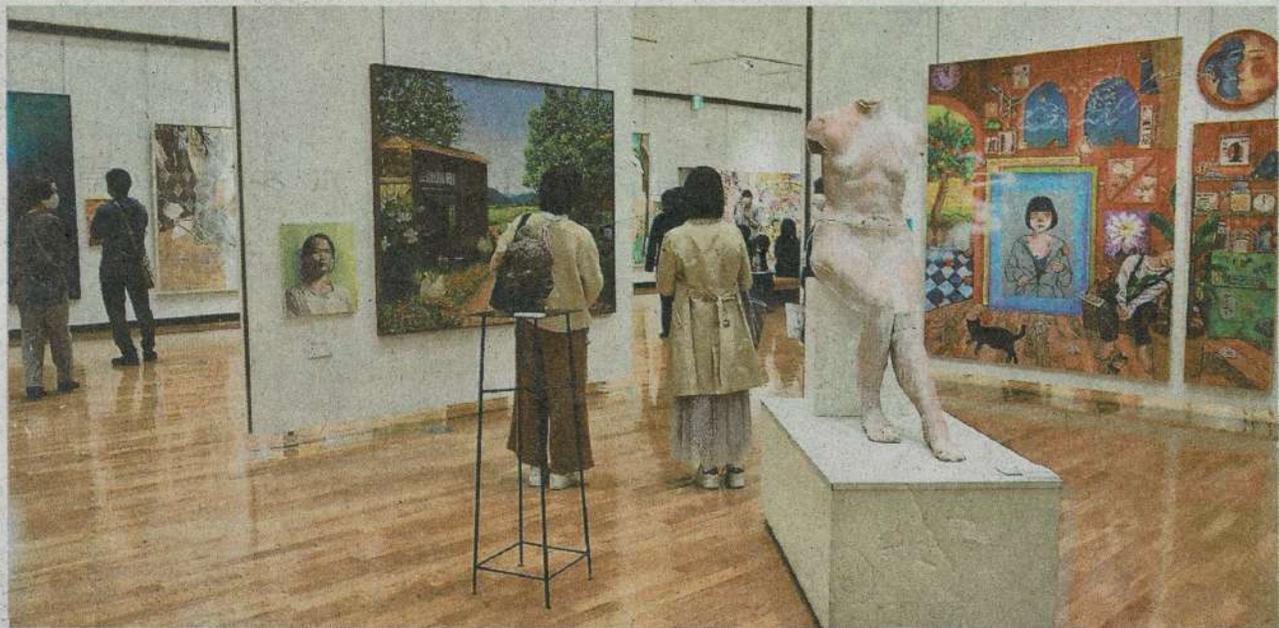


踏み出す思い 作品に

崇城大卒業・修了展
県美分館28日まで



崇城大芸術学部卒業展と大学院芸術研究科修了展が23日、熊本市中央区の県立美術館分館で始まった。熊本地震やコロナ禍を経験しながらも、自分や表現と向き合い続けた学生たちの熱量の高い作品が並ぶ。28日まで。

卒業展は18回目、修了展は16回目。今年のテーマは「Zer0(ゼロ)」で、どんな苦境でも新たな一歩を踏み出そうという思いを込めた。絵画やデザインなどを専攻する63人が182点を出品している。

中嶋奈菜子さん(4年)は高さ

2.5mの折り畳み式立体で、「死への希望」という独特な死生観と発表を前提とする制作への抵抗を表現。湯谷友貴さん(修士2年)の油彩9連作は、幼少期の家族写真を題材に記憶が薄れたりよみがえったりする様を描いた。

コロナ禍に関連し自身や社会を見つめた意欲作も目立った。外出自粛中もたじろがない理想の自画像や、感染症対策と温かな接客を両立させようと考案した移動式販売ブースなどが目を引く。

(魚住有佳)